



農林水産大臣賞受賞 農事組合法人 おくたま農産

10月30日、石川県で開催された平成25年度全国優良経営体表彰において、農事組合法人おくたま農産（代表理事組長佐藤正男）が集落営農部門で「農林水産大臣賞」を受賞しました。

圃場整備を機に、7つの集落営農が統合して、平成19年に法人を設立し、参加戸数340戸で構成されています。

経営規模は、175.2haと県内でも上位にあり、田植え、稲刈りの労働の集中による作業体系の見直しで、人件費を削減、機械整備部門を設置することで修繕費を削減するなど生産コストの低減に取り組み、平成24年のコメの生産費（約7,000円/60kg）は、東北地方の経営規模5ha以上の平均（約11,800円/60kg）をはるかに下回っています。

小作料は、13,000円/10a、オペレーターが常時10名程度、作業員は17人、水管理と畦畔管理は、7地域の営農組織に任せ、さらに農地管理を地権者に依頼し、その年の収益状況に応じて10a当たり2万3万円を管理費として支払っ

ています。

また当初から加工販売部を設け、平成21年に「工房あらたま」が完成、女性メンバー12名による麴にこだわった味噌や米粉の加工販売で6次産業化も進めています。

同法人への農地の貸し手の一人は、「高齢化や後継者不足などで個々の農家ではどうにもならない法人に任せていて、安心の一言に尽きる。田畑が荒れる心配もなく時間もでき、他の農作業ができていく。」と話し、法人へ寄せられる信頼は厚いものです。

佐藤組長は、水稲直播の実用化や園芸導入など攻めの営農を進める一方、法人の収益より地域の雇用や収入を優先し、地域の皆さんと協業による農業でふるさとを守りたいと語ります。事務所の壁には、「璞玉」（あらたま）の文字があり、「真の玉に磨きあげる」の意のとおり、圃場整備の時代から長い年月をかけ、地域農業を真剣に「磨きあげて」きたことを感じます。

萩荘赤猪子地区女性部

「地域を元気に」
「地域食材の伝承を通して」



赤猪子公民館前で女性会員のみなさん

紅葉のなかに広がる田んぼから
秋の風景、宮城県栗駒に近い赤猪子地区のJA女性会員11名が集い、会員の畑7アールで地域食材の利用拡大を図り、ジャガイモ・人参・大根・白菜・サツマイモなどを栽培しています。産直施設へ提供するほかに女性たちの野菜づくりを地域の交流事業に活かす取り組みをしています。

代表者は千葉盛子さん。今年7月にはジャガイモ掘り体験を、

10月はサツマイモ掘り体験を開催し、地区の親子が大勢参加して消費者との交流を深めました。サツマイモは市の農業祭でも完売するなど女性たちの自信となりました。11月には地区内の茨城県出身者の声がけで来訪した茨城の親子11名が赤猪子公民館に宿泊して農村生活を体験し、「赤猪子」という地名にも子供たちは興味津々で思い出深いものとなった様子です。

会員の一人は韓国出身、赤猪子産の白菜をキムチ加工し地区の工房「酔辛菜胡羅飽韓」（こうしんさいこらぼかん）で販売していますが、タマネギの皮を使うという珍しいスープの作り方も女性会員たちに教えています。

また会員の中には「畑の先生」もいて小学3・4年生に豆腐づくりを教える出前講座を担うなど女性たちの食に関する知恵は豊富です。

活動する会員11名の女性たちは年代も様々です。世代間で、農作業のこと、季節の野菜の加

工の仕方など、「教え、教えられ」活動しています。会員同士の、地域の子供たちとの、また消費者の方たちとのコミュニケーションを大切にしているという「女性たちの野菜づくり」は赤猪子の「地域づくり」へと確実に広がっています。

グリーン・ツーリズム 「農業体験生の受け入れ」

花泉のグリーン・ツーリズム推進協議会では、農業農村の活性化を図るため、平成9年から農業体験生の受け入れをしていますが、私も平成17年から体験生を受け入れています。どんな農作業が良いか家族で話し合いワクワクしながら中学生たちを待ちます。

毎年、5月の田植え時期に100名を超える中学生が訪れ、35軒の農家に泊まり、各々の農家で「代掻き」「田植え」「畑仕事」「古い農具の使い方」「精米」などの体験をしながら、家族と一緒に夕食の支度や片付けなど

もします。

花泉では、昔からおもてなしとして、「餅」を振る舞います。体験生にも一泊目の夕食には餅をつき、子供たちが味付けや餅切りをします。東京では家庭で餅をつくことがほとんど無いらしく興味深い様子です。農作業のほかには花泉の方言、しきたり、年間行事のことも話します。その中で農の楽しさ、辛さ、食のありがたさを感じてもらえればと思います。2泊3日はあつという間で、別れがたいものですが、秋には体験生に手紙を添え「新米」を送ります。とてもおいしいと喜んでくれます。

グリーン・ツーリズム有志は、秋の江東区民まつりに参加して米、野菜、果物、花などを出店し交流を深めています。今後もグリーン・ツーリズム会員の皆さんと協力し、体験生から若さをもらい、私は「農」や「食」を伝えていきたいです。

投稿 農業委員 三浦チエ子さん



農業施策の充実を 市長へ建議書を提出

11月19日、一関市農業委員会では、伊藤公夫会長、阿部東悦会長職務代理者、畠山比佐夫農政専門委員長、村上真喜雄同副委員長、小野寺文人農地専門委員長、鈴木逸朗同副委員長が、一関市役所を訪問し、勝部市長に対し、各農業委員の要望をまとめた7項目からなる建議書を提出しました。

主な要望事項は、原発事故による放射能汚染対策、担い手の確保と経営所得安定対策、国や県への要請事項などです。

これに対して市長からは、放射能汚染対策については、市の最優先事項として引き続きしっかりと取り組んでいくこと、また、国の農政の柱が益々見えにくくなっているが、地方の声を国へ届けながら持続可能な地域農業のために取り組んでいくこと、国や県への要請ではTPP交渉や米問題などあらゆる機会をとらえて要請していくことな

どが話されました。



第58回岩手県農業委員 大会が開催される

11月8日、都南文化会館にて、第58回岩手県農業委員大会が開催され、会長、農政専門委員19名が参加しました。

この席上において「農業委員会等活動表彰農業者年金部門」で一関市農業委員会が、「同全国農業新聞部門」で佐々木利夫委員が、各々その功績と活動により表彰されました。

大会は、「農業施策の充実に関する要請決議」「農業委員会活動

の強化に関する申し合わせ決議」「第22回農業委員統一選挙に関する特別決議」「TPP交渉に関する特別要請決議」の議案を決議し、大会宣言を採択しました。大会後は、農林水産省事務次官の皆川芳嗣氏から、「攻めの農業と農業委員会の役割」と題して特別講演があり、研修の機会となりました。



農業委員会委員 選挙人名簿登録申請書の 提出を

登載申請書は農業委員の選挙人名簿作成の基礎資料となる大

切な書類です。次の方は1月10日(金)までに申請書を提出してください。

対象Ⅱ平成26年1月1日現在市内に住所のある20歳以上(平成6年4月1日以前に生れた方)で次の①～③のいずれかに該当する方。

- ① 10 a以上の農地の耕作業務を営んでいる方(経営者)。
- ② 前記①に該当する方の同居の親族またはその配偶者で年間おおむね60日以上耕作に従事する方。
- ③ 10 a以上の農地の耕作業務を営む農業生産法人の組合員、社員、または株主で年間おおむね60日以上耕作に従事する方。

※申請書は12月中旬に農林連絡員(農家組合長)を通じて配布する予定です。組合未加入者の方には直接郵送します。

お問い合わせ 一関市農業委員会
☎ 21-8692



農業者年金加入推進月間です

加入資格は、年間60日以上農業に従事する60歳未満の方で、国民年金1号被保険者の方であれば、どなたでも加入できます。

経営移譲年金受給者の方へ

農業所得の申告について経営移譲年金受給者のいる農家は、農業所得の申告を後継者名義で行う必要があります。受給者本人が申告すると農業を再開したとみなされ経営移譲年金は支給停止になりますので、ご注意ください。(ほかに農協の組合員、農業共済関係等、後継者の名義となっている必要があります。)

地目変更にはご注意ください

経営移譲年金受給のために後継者等へ貸した農地や、贈与税の納税猶予対象農地を農地以外(宅地、山林、雑種地等)に地目変更すると、経営移譲年金は支給停止となり、贈与税は納税猶予が打ち切りとなります。

お問い合わせ 一関市農業委員会

☎ 21-8692

農地賃借料情報

農地法の改正により、従来の標準小作料は廃止され、地域における賃借料の目安となるよう農業委員会が実勢の農地賃借料情報を提供することになりました。

平成24年1月から同年12月までに締結(公告)された賃借料における賃借料水準(10aあたり)は、以下のとおりとなっております。

1 田(水稻)の部(10aあたり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	11,088円	17,250円	3,480円	2,641
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	6,661円	14,000円	2,933円	226

2 畑の部(10aあたり)

	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	8,471円	12,000円	3,000円	42
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	4,451円	9,233円	1,894円	93

○今回公表する賃借料情報は実際の契約に参考としていただくために、それぞれの地域ごとに契約額が極端に高額、低額(平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの)な実例をあらかじめ削除した後、全体集計しております。

○実際の農地の貸借には、賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めておりません。

○実際の農地の賃貸借契約の際は、対象農地の収穫見込量や形状および隣接する道水路等の状況等を考慮して、両方で協議の上決定してください。

編集後記

昭和40年頃、農業の曲りかどと言われていた。それから50年、農業は何回曲がりかどを回ったのだろうか。今、米政策見直し、TPPとこれまでにない大きな「かど」に立っている。

農地パトロール(農地利用状況調査)を市内全域で行った。これまで耕作していたであろう田畑、草が生い茂り、すぎがなびき、柳が生え、無残な姿が目につく。荒廃農地の発生防止と解消の取り組みは、地域の方々の協力が必要です。

先人は揺るぎない教えを残している。二宮尊徳は「農は万業の大本」と説き、横井時敬東京農大初代学長は「土に立つ者は倒れず、土に生きる者は飢えず、土を護る者は滅びず」と諭した。農は、いつの世もしたたかに生きよう。

編集委員 佐藤 繁

農委だより編集委員
編集委員長 千葉 綾雄
副編集委員長 佐藤 繁
編集委員

佐々木 栄一、石川 誠司
伊藤 弘志、三浦 子衛子
齋藤 憲子、千葉 久壽郎

